

年 組 名前:

問1

2022年の新規株式公開件数が、112社になり、過去10年で2番目の多さです。この状況をどのように分析していますか。

.....

問2

新規上場した企業の、業種上位3種とその社数を教えてください。

業種	社数
1位:
2位:
3位:

問3

新規上場の初値に基づく時価総額が、最大であった企業名と、その金額を教えてください。

企業名:

時価総額:

問4

以前の東京証券取引所では、市場区分として、市場第一部、第二部などの区分に分かれていましたが今年4月4日からは、3つの区分となりました。その3つの区分を教えてください。

- 市場
- 市場
- 市場

22年新規上場112社 過去10年2番目の多さ

日本取引所グループ（JPF）は2日、2022年の国内株式市場への新規株式公開（IPO）件数が前年より24社少ない112社になるとの見通しを発表した。新型コロナウイルス禍からの経済活動再開で昨年の上場企業数が増えた反動があったが、過去10年で2番目の多さになる。市場には停滞感も出ているが、新興企業の上場意欲の高さを示した。

業種別では、情報・通信業

が最大の38社で、サービス業が36社、不動産業が10社と続いた。初値に基づく時価総額は、バーチャルユーチューバ（Vチューバー）グループの運営を手がけ、6月にグローバル市場に上場したANYSO LOR（東京）の1442億円が最大だった。一般市場への足掛かりとして、機関投資家などプロ向けの東京プロマーケットに上場する企業が増えており、前年より8社多い21社と過去最多を更新した。一方、上場承認を受けた後に取り下げた企業も8社あった。ロシアのウクライナ侵攻などを受けて市場の先行きに不透明感が増したためとみられる。東証の担当者は23年以降については「新規上場は底堅く推移するが、企業が上場時期を見極める状況が続く」と話した。

(2022年12月3日付 山梨日日新聞6面)